

租税法概論		教授 田地野 幹雄	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門選択科目 会計ファイナンスコースの専門選択科目 経営・経済コースの専門選択科目	科目ナンバリング	23212201

1. 授業のねらい・概要

ひとはこの社会にあるかぎり、税金、つまり租税と無縁では生きられない。租税学は、法学・会計学・経済学・経営学といった各領域にまたがる非常に学際的な学問であるが、本授業は、初めて租税を学ぶ学生を対象に、特に法学からのアプローチを通じて租税の意義を体系的に理解してもらうことを目的としている。

授業では、まず租税の仕組みを概観し、次いで租税法全般にわたる基礎的な理論（総論）、各租税法の内容（各論）、国際課税制度、税務行政の手続きや争訟制度、税務行政の組織を順次説明する。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とするが、授業の進捗状況に応じて各回の授業内容が多少前後することがある。また、税に対する理解を深めるため、原則として、毎回、税に関するビデオを見てから講義に入る。

3. 授業計画

1. 租税法概論総説	9. 各税の概要④（相続税・贈与税）
2. 租税の意義と目的	10. 各税の概要⑤（消費税）
3. 租税の分類と原則	11. 各税の概要⑥（酒税・印紙税等）
4. 租税負担と租税体系	12. 国際課税
5. 租税法の法体系	13. 税務行政の概要
6. 各税の概要①（所得税／概要・納税義務者）	14. 税務行政の組織と権限
7. 各税の概要②（所得税／課税標準・税額計算）	15. まとめ
8. 各税の概要③（法人税）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておく。さらに、テキストの予習も行っておく。なお、これらの準備学修には2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

租税法全般にわたる基礎的な知識を身につけ、租税の意義を体系的に理解できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験の結果（80%）及び授業への取り組み姿勢（20%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

国税庁のホームページから税務大学校講本「税法入門」をダウンロードして使用する。

9. 受講上の留意事項

特になし。